

## 第 134 話〈事業家〉の要約と参考資料

### 第 134 話〈事業家〉の要約

小又川沿いに小屋を建てて暮らす佐藤三代士さんは「小又谷の仙人」と思われていましたが、実は土呂久の事業家。若いころワサビの品種改良、茶葉を乾燥させる焙炉の導入など土呂久に新技術を広め、80歳を超えて山の産物と風景を生かした観光に着手していたのです。

### 第 134 話〈事業家〉の参考資料

#### 1 3 4 - 1 「鶴（つる）」の語源

##### 1. 自然の湧水のあるところ・細長い水路

原田敏明「高千穂・阿蘇の宗教的考察」（「高千穂・阿蘇」所収）によれば

自然の湧水のあるところを「つる」と言い、「津留」「都留」「水流」あるいは「鶴」という字をあてていた。

佐藤幸利さんの話（1983年11月11日電話で聴取）

「鶴」には湧水がある。谷のもとの茶工場の上30メートルのところ。飲料水に使っている。「鶴」と「中鶴」の2軒分まかなっている。

##### 2. 鉱脈のこと

石村禎久著「石見銀山異記（上）」より

石見銀山では鉱脈のことを鉱と呼んでいたが、これが一般の生活用語に組み込まれ、その家の系統がよいことを「蔓がよい」というふうにいわれるようになったし、諺に「瓜の蔓にナスビはならぬ」というふうにあらわされたりしている。

#### 1 3 4 - 2 「鶴」の家系と和合会役員

佐藤三代士（「土呂久羅漢」の魚遊仙人（いおあそびのせんじん）より）

1897年、土呂久の百姓家の長男に生まれる。部落のリーダーの一人として農業技術の改良につとめ、40代から60すぎまで部落の自治組織「和合会」の会計、副会長、会長を歴任。隠居してからは小又谷にひきこもって養魚場を開き、ひとり暮らしの気楽な余生を送った。1974年に慢性砒素中毒症の患者に認定され、92年11月に95歳で死亡した。

佐藤弥七（三代士の父）

取締役 大正32年2月25日～大正5年2月26日

大正 8 年 2 月 24 日～大正 11 年 2 月 19 日  
区長 大正 11 年 5 月 29 日～昭和 3 年 7 月 23 日  
佐藤三代士  
会計 昭和 13 年 2 月 23 日～昭和 16 年 2 月 18 日  
副会長 昭和 16 年 2 月 19 日～昭和 19 年 2 月 24 日  
会計 昭和 19 年 2 月 25 日～昭和 34 年 3 月 2 日 (5 期連続)  
会長 昭和 34 年 3 月 3 日～昭和 37 年 2 月 27 日  
佐藤重男 (三代士の長男)  
公民館書記会計 昭和 39 年 8 月 16 日～?  
公民館会計 昭和 41 年 2 月 14 日～?  
副館長 昭和 43 年度、45 年度  
館長 昭和 48 年 2 月 26 日～?

### 1 3 4 - 3 土呂久の実業家、佐藤三代士さん

三女佐藤ヨシエさんとその夫春喜さんの話 (1983 年 10 月 28 日聴取)

三代士さんの人柄は温厚、おこられたことがない。その代わり、仕事は厳しかった。先見の明があった。

(農林業の振興に果たした役割)

ワサビ: 操さんのじいさんの助さんと三代士さんで、長野とか山口へんから種を取り寄せて改良、普及させた。昔から土呂久にあったのは、根っこがない葉ワサビ。今は、根っこのあるワサビ。

茶工場: 静岡あたりの機械 (「ほいろ」=箱でもむ) を入れて、村の人 (「惣見」の清八さん、「笠」の利八さん) と 3 軒共同でやっちゃらした。

ニジマス: 三代士さんが最初。そのあと勝さんが「やろ」と言った時期があった。

シイタケの種駒: シイタケの種駒を使い始めたのも三代士さんが最初。このときムロといっしょに茶工場も焼いた。えらいなナバがはえて、量が多いので、何日も徹夜で 24 時間連続して乾燥させたので、エビラ (ススキで編んだ) に火がついて、火災を起こした。

シイタケ乾燥: 昔は炭火で乾燥させていたが、火事を起こしたので、薪を乾燥させる方法を取り入れた。

人と変わったところがあるわね。あちこち歩いて、視察して回って、人より先を行きよらしたわ。あと、みんなが活かしてくれたらいいちゃけど。人より先に導入してやってみる精神 (進取の精神) があるようすな。重男 (三代士の長男) 兄貴とえらい違うですが、土呂久にまこつ、あんな人はおらんですわ。

芥川さんは (写真集に)「仙人」と書いとったけど、仙人じゃないですよ。自分 (春喜)

が若かったら、山道を生コンで舗装してマスの養殖を拡大する気持ちを持つとるけど、年とったからそげまじはせん。あそこ（養鱒場）の水田は（春喜）が借りて耕作しよった。日之影営林署の勤務になったので、作れんから返した。それから三代士さんが水田をつくったが、収量が少ない。うまくいかずニジマスの養殖を始めた。

以下、インターネットより

### ほいろ【焙炉】

①茶葉・薬草・海苔(のり)などを下から弱く加熱して乾燥させる道具。元来は木枠や籠(かご)の底に厚手の和紙を張ったもので、炭の遠火で用いた。伝統的な製法では、茶は蒸した茶葉をこの上で手で揉みながら乾燥させる。こんにちでは電気やガスを用いた熱源の上に同様のものを備えた、手揉み工程の作業台もいう。

②パン生地発酵などに用いる密閉された保温装置。また、パン生地の最終発酵の工程をいうこともある。

◆「ほい」は唐音。

出典 [講談社](#) 食器・調理器具がわかる辞典について

[日本大百科全書\(ニッポニカ\)](#)「焙炉」の解説

### 焙炉（ほいろ）

茶、薬草、海苔(のり)などを乾燥させる道具。木の枠や籠(かご)の底に和紙を張り、遠火の炭火を用いる。また、「ほいろう」ともいう。『[日葡\(にっぽ\)辞書](#)』には Foiro と記され、「茶を焙(ほう)じ煎(い)る所、または、その炉」と解釈している。また、『和漢三才図会(ずえ)』など、江戸時代の辞書類には、茶を焙(ほう)じ煎(い)ることをおもな役目としている。

[森谷尅久・伊東宗裕]

## 134-4 進取の精神

佐藤三代士さんの話（1984年5月25日聴取）

何をやるにしても先駆者の話を聞いたり、見たりせんといかん。あとで自分で、こうしてみよう、ああしてみようと研究せないかんとです。話を聞くだけではね。旅行しながら、よそはどんな文化か、いろいろ見たり聞いたりして、利用せないかん。ただ見て回るだけの人ばかり。いいとこ持って帰って実地にやってみる人は少ないですね。

## 134-5 ワサビの改良

佐藤三代士さんの話（1982年9月30日聴取）

葉ワサビは昔から土呂久で栽培しよりました。それを私が品種改良してやったわけで

す。昔からのワサビも葉だけをたてて、同じようにして食べよった。たて方はあんまり変わらんが、苦みがのうておいしい。

(支庁の方など) 専門家に頼んで、注文してとってもらたわけですわい。山口とか島根とかの種を注文して。ああいうところは、カケあわせて違う品種をこしらえるとやねえ。稲なんかもそうしますわいねえ。違う品種をせんぐり植えてみて。山口、島根、長野とかが混じって。いまの土呂久のワサビになっている。ワサビは値段がよかつたんですわ。山間の名物。めったなところではできませんもんね。ワサビというのは、水質がよくないとできんとです。石灰岩を通した水やったらできる。どうしてかといえ、石灰岩を通すと、酸性分を中和してくる。その水じゃからいい。小又川は水が非常にいいんです。小又の上に出ておりますが、石灰岩が。惣見川の水は悪いです。本当は湧水が一番いいですわ。

エザリちいうてから、横に這う。とろうとしても始末つかんですわ。薬剤はきかんとよ。ワサビの根を食うからいかなとです。

お盆と正月に岩戸から高千穂あたりへ出すくらいのこと。珍しいもんじゃから、お土産品になるとです。延岡、日向へ出せば銭になるもんやけど、量がないんです。場所がないとです。よそにだすほどはありません。

ワサビは親父の代からやりよったもんです。根がこもして、短い。そうすつと、今あるやつは根が大きゅうこげしとる。都会あたりは、根を眼目にしちよりますよ。田舎の人は葉、茎がいいといいますが、都会は根が大きゅうないといかん。東京あたりの一流の料亭に持って行きまして、根一本でえらいな値がします。それで、根のあるワサビに改良して、親父のワサビを引きついで「少しでも、お金になるところがあれば、やらないかん」。他の人に勧めてみるけど、他の人はやらんとじゃな。わたしゃ助さん(昭和27年8月22日死亡)と2人で、山口から島根に視察に行たもんです。それから、あちらの種をとって改良し始めたんですな。昭和37, 38年ごろ(27, 28年のまちがいと思われる)西臼杵支庁の林務課に寺沼さん(\*)という人がおって、寺沼さんが島根から種をとってくれなかつたとよ。

それからわしゃ一人で三股にも視察に行つてね。三股の内の木場(うちのきば)という山奥ですがね。軍用犬に吠えられて、食いかかられるんじゃないかと怖かつたです。奥に1町くらいワサビを植えちよる。話を聞いたら、見て歩かんとね。わからんですから、物好きちゅうもんですわ。

山口の錦川をたどって、島根との境の広瀬ちゅうとこまで行きました。そこには専門家がおりましたが、留守で「今夜は泊まりませんか」ち言われたが、助おじきが長うはいちよれんちせくもんじゃから、バスで岩国まで出て泊まり、明くる日、下関まで出たけど高千穂に帰りつかんと。本当は、伊豆半島から東京まで行こちいうことやつたが、引き返してもた。伊豆はなかなかワサビの名産地やもんな。

せんぐり種類をかけあわせて、根の大きいやつ、葉の大きいやつ、そして役場に出ちよる人が、長野のワサビを注文してとりよせてくれたんです。長野、山口、島根、こういう

種類が混合しちよりますから、田舎で売るには、根よりも葉、茎がついたものの方がいいようです。私がワサビを始めてすぐ、「産業まつり」が県でありました。それにだしたわけですか。どうしたはずみか、賞品をたくさんもろたですわ。

\*宮崎県職員録をみると、昭和28年3月31日に「林政課 西臼杵駐在 技術吏員(3級) 寺原盛行」の名前が認められた。他に林業関係で姓に「寺」がつく人物が西臼杵支庁にいたことはない。

#### 134-6 山を活かす

佐藤三代士さんの話(1983年10月28日聴取)

山の中は、山の中にでくる産物(さんもつ)を活かさないかんとやね。金取り道があるよ、山ん中にも。そこまで頭を使わんとかな、みんな。都会に出て行かな、金はとれんという頭になってしもとつとよね。山の中でも、産物さえ出せば、金になるとよ。

わたしゃ、小又川を活かさにやいかんという気持でこちら(小又谷)に入り込んだとです。河川開発に。若かったらな、わしゃ、観光地までつくろかという考えをしとったけど、もうダメですわ。道路を開発してね、モミジの時期にはモミジ、桜の時期には桜。みなを喜ばして来てもらおうという気持ちしとりましたけど、もういけません。10年若かったら、もうひと踏ん張りやりますけど、もうダメですな。

土呂久で指導して、これをやらせ、あれをやらせ、という気持ちはありますけど、みんなついて来ませんわ。山ん中に引っ込んじゃうでね。都会のこと、わからん人が多いわ。都会に出て歩いてみらないか。都会の風に吹かれて、こちらに持ちこんで、何せないかんですが、山ん中は山ん中で、山につつまれて、その周辺で渡世をするような頭じゃがね、みんなは。

山ん中には、まだまだ金になるものがすたつちよる。わしゃ、こう思うとよ。都会の人は、それをちゃんと見透かしとるよ。山野にでくるワラビとかゼンマイとか山菜。金になるもんがたくさんあるとやけど、それを踏みにじって歩きよるとやね。

#### 134-7 空想の観光開発

佐藤三代士さんの話(1984年5月25日聴取)

いま残念なのは、体がありませんと。体があつたら、もう少し大きな仕事をせないかんとという空想はありますと。本当は、高千穂、岩戸においでになるお客さんを、いくらかでも誘致する設備をしたい気持ちはあるとですけどね。何分にも体が動(いご)かんとです。

こんな道筋でも、何か草花を植えて……、この道路に柵をつくって、下り藤を植えて、時期的に客を呼ぶという空想だけです。道路の片側に土地を借りまして、桜とかシャクナゲとか、ずっと下から植え付けてみたいような考えですが、もうダメです。何とかしてお

客さんに、ただ魚を食べてもらうだけでは物足りない。あそこに滝がありますね。あの上  
に鉄柱を建てて、夏涼みをやるかたわら、魚を放流して釣らせるとよ。宮崎へんからおい  
でになって、「こんなところに住まいしとれば、おじさん長生きしますよ」。夏は暑さ知ら  
ずで、いいとこですよ。あと、誰かついでやれば、できるとよ。道路もよくなったからね。  
こんど岩戸から土呂久まで舗装やれば、ほとんど舗装になってしまうでしょう。熊本の堀  
田先生は、たいがい夏休みにはおいでになるとよ。「こちらの方が涼しいからいい」。

私はもの好きで、何かやってみる。けれど、年がありませんからね。改良の方針も、体  
がかなわんですよ。60歳代だったら、ま、ひと奮発やりますけど、80, 90になると、体  
がどうにも動(いご)かんの。気持ちだけはありますけど、ダメですわ、体が動かんと。  
もう10年若かったら、やるとやけど、ダメです。

#### 134-8 土呂久の椎茸共同乾燥施設

高千穂町史 P434

##### 第3節 農業

農山漁村振興特別対策事業実施状況調査

年度：34 事業種目：共同乾燥施設 事業ヶ所及び事業主体：土呂久椎茸生産組合

事業量：1棟 9.83坪 一式

事業費：29.9万円 負担存分：国庫補助 11.9万、自己調達 18万